

されていきます。その中で伝統社会の近代化をめぐる問題を、フェミニズムの問題を、出産に関する医療問題を、気負いも銜てらいもなく作品に組み込んでいます。

例えば、アジアの小国サイラムの女性首相がこのバルーン・タウンで出産することになるわけですが、彼女の国では、過去に妊娠や出産のやり方を徹底的に近代化する政策が取られ、病院で、しかも事実上帝王切開でしか子どもを産むことがで

きなくなってしまうのです。というのは…。  
おっと、これ以上は止めましょう。

でもあと一言だけ。一連の作品を通し「あらまほしき妊婦」に徹頭徹尾反抗する未婚の妊婦探偵、小暮美央の姿は、あなたの目にどのようなものでしょうか。どうぞ彼女の言行に敏感になりながら、しばしば子産みの思想とお戯れください。

(鳴門教育大学)

## 『あやちゃんの贈物』

—— 絵に託した生命の輝き ——

三瓶和義・正子 編 萌文社

近藤 伊津子

この本は、七歳で逝ったあやちゃんの描いた画集である。四年九か月の闘病の中、少女にもなりきらぬ幼な子が、描画という「言語」でさまざまにコミュニケーションをしながら生を全うした証のものでもある。

第Ⅰ部は描画、第Ⅱ部はかかわりを持ったおとな達、看護婦、医師、保育所の先生、小学校の先生、そして母、姉、祖母、叔母たちの追悼のことば、骨髄バンクのこと、第Ⅲ部は父親に依るあやちゃんの年譜にわけられている。

描画はさらに三部に分けられているが、病状の変化との照合のうちに、ただ単に、画才の秀でた子どもという捉え方では、おさまりきれない激しい緊張と、安堵を感じてきた。

七歳を過ぎ待望の小学校入学の頃描かれた「アリスさんシリーズ」は母親の付記に依れば「一時期アリばかり描き続けていた」という。あやちゃんの元気であった時には、夏の盛りともなれば、自宅の周辺ではいつでも出会えたアリ。自分の体より大きい枯葉や食物らしきものを持ち家路に急ぐ、その行列行進は、どこからか湧き出たものであり、いずこへか往ってしまふもの。あやちゃんはその行列に、煙のたなびくアリのわが家に終着点をもうけた。

そして「ねずみのふゆごもり」も「入学した頃、登下校のわずかな時間を惜しむかのように描いていた——あまり熱中しているので疲れるから少し休むように何度か注意した」とある。

焚き火で暖をとりながら、チーズを頬ばり、カウチに寛ぐふわふわみずみ。

これら日々の営みの姿の小さな生きものたちを精魂込めて描きつづけたあやちゃんは、定かでないかれらの安住の寝ぐらを探し出したいと、願ったのではないか、そして探し出せた、と思ったのだろうか。

あやちゃんは、自分の生に不安を持ちはじめた時期ではないだろうか。安全に生きのびるところを入手したい、と願望していたらうに。

しかし、やがて天使の描画が始まる。生まれかわってふつうの元気な子になりたい、天に昇り天使になることを憧れていたという。

生の終わりの時機を感知していた。子どもは自己の心理状態についてだけでなく、ときに身体症状についてまで及んで、知り決断してしまうといわれる。

幼い子どもであればあるほどに、おとなのようにあらゆることに抵抗しない故に、病にも、死にさえも、たやすく順応してしまうのでないだろうか。

この雲上に遊ぶ天使たちは甘美でさえある。

星を散りばめる少女や、長衣をまとい優美に浮遊する天使になる自分に陶醉さえしているように感じられる。

生の後の未知の世界を、あやちゃんは、十分に想像・創造し得たのは、読書量の豊かさの故であったのかもしれない。しかし、おとなびた行動のあったことを幾人かの周囲のおとなが記しているように、あやちゃんは、それだけではない——重病で入院を繰り返す特別の立場の幼若患者が急速に成熟していく、特性を示したものでなかるうか。

身体的にはまだ小さい。しかし、かれら自身の

死の認識という点になると、他のそうでない子どもたちよりはるかに、成熟していくのではないだろうか。

この描画集の中で圧倒されたのは「わたしのおかあさん」である。

あやちゃんの描くおかあさんの大きく見ひらかれた瞳は、物静かで慎ましい。

死の近いわが子にそそぐこの母親のまなざしは、悲しみを超越し、その時を受容しようとする優しく、また毅然とした心がひそやかにたどっているように思われてならない。

そして、これは、あやちゃんが、母親と、その時のことを了解しあった瞬間ではなかったか。

母と娘が交わしあったまなざしに驚嘆するのである。

あやちゃんは、あまりにも短かった人生ではあったが、しかし、その生を完全に成就したのではないかと、深く安堵したのである。

（かっこう文庫主宰  
駒沢女子短期大学）

#### 参考資料

『死ぬ瞬間の子供たち』E・キューブラー・ロス著

川口正吉訳 読売新聞社 一九八二年二月

